とんちゃく

潮陵高校新聞局
cns
－発行－
文責　大宮 真

大会に挑む潮陵生

全道の舞台でいざ、飛翔け！

▲全勝で優勝を決めた女子バスケ部

女子バスケ部「最後まで全力」で

5月31日（金）から6月2日（日）にかけて小樽市総合体育館にて行われた高体連小樽支部予選で、潮陵女子バスケットボール部が全勝で優勝を収め、全道大会への切符を手にした。

今大会について、部長の3C猫宮千里さんは「これまでの大会で、どちらが勝ってもおかしくないような接戦を続けてきた、ライバルの桜陽高校との試合では、今までで一番良い試合をして勝つことができてよかった。全勝での優勝は率直にうれしいです。ただ、みんなここで満足はしていません。前進あるのみです」と語る。

さらに、今大会ではコート上の選手と応援している選手、そしてマネージャーとが一体となって、チームワークで勝利を手繰り寄せた。猫宮さんは「応援はいつもより声が出ていて、全員が『気持ちで負けない』という思いを強く持っていた」と語ってくれた。

最後まで全力
小樽潮陵

また「最後まで全力」と書かれた応援の垂れ幕は、2年生部員から大会前日にプレゼントされたものだそうだ。毛筆で書かれた文字は書道部によるもので、この「最後まで全力で」という言葉は、顧問の北本岳章先生はじめ、チーム全員で大切にしている言葉という。

▲マネージャーの支えが不可欠

最後に全道大会への意気込みを伺うと、猫宮さんは「後志代表として潮陵の名を背負って出場するので、悔いの残らないよう『最後まで全力で』プレーしてきます」と力強く語った。また、3年間共に戦ってきた3年生のマネージャーも全道大会への思いは強く、3Dの森下真衣さんは「全道の舞台で戦い抜くプレーヤーの姿を見るのがとても楽しみです。全力でサポートしたいと思います」と語る。

バスケの全道大会は6月21日（金）より稚内市で行われる。潮陵女子バスケ部らしい「最後まで全力」のプレーに期待したい。

▲全道出場を決めたサッカー部のプレー

サッカー部、全道へ 潮陵の名を轟かせて

5月29日（水）から31日（金）に、サッカーの高体連小樽支部大会が小樽市望洋サッカー場で行われ、潮陵サッカー部は準優勝を果たし、全道大会出場を決めた。

全道大会出場を決めた準決勝では、倶知安高校と対戦し、3－2で勝利した。この時の試合について部長の3E遠藤巧弥さんに伺うと「延長戦までいって、先に1点奪われたが、途中交代した選手が2点決めて逆転勝ちし、劇的な試合だった」と振り返ってくれて、また「もっとチャンスの時に決めきりたい」と、さらなるレベルアップを目指し語ってくれた。途中交替で出場し、同点ゴール、決勝ゴールの2ゴールを決めた3F渋谷拓生さんに話を伺うと「出場する時にプレッシャーで涙が出たが、結果、点を決めれて、とてもうれしい。全道でも勝ちたいので、点を取ってきます!!」と語ってくれた。

▲３Ｆ渋谷拓生さん

今日から21日（金）に札幌市で行われる全道大会の意気込みや目標を部長と副部長に伺うと、部長の遠藤さんは「全力を尽くして小樽潮陵の名を全道に轟かせて、僕たちの青春の1ページに刻み込んできます」と語る。副部長の3G世戸凌太さんは「最後まであきらめずに、楽しんで頑張ってきます」と語り、同じく副部長の3E松橋拓矢さんは「全道はレベルが高いので、厳しい戦いになると思うが、自分たちがやってきたことを最後まで出し切って頑張りたい」と語り、全道大会への熱い想いが見受けられた。

全道大会での活躍を期待したい。

剣道部 個人戦も全員で

5月26日（日）に双葉高校で開かれた剣道の高体連支部大会では、潮陵剣道部は男子団体で準優勝。また、女子団体は優勝して全道大会への出場権を得た。さらに、男子個人では部長の3A市川誠也さんが優勝、2E石井拓人さんが3位、女子個人で2Cの品田琴理さんが3位となり、全道大会への出場権を勝ち取った。

市川さんに今回の大会について伺うと「積極的に相手を攻めていけたのは良かったが、いつもより相手の攻撃を受けることが多かった」と答えてくれた。石井さんは「自分の力を出せてよかったが、最後まで集中力を保つことは課題」と語ってくれた。また、品田さんは「団体戦では自分の実力をきちんと発揮できたが、個人戦では勝ちたい勝ちたいと思うあまり、力が入り過ぎてしまった」と振り返った。

▲相手を攻める３Ａ市川誠也さん

最後に3人に6月18日（火）から21日（金）に釧路市で開かれる全道大会への意気込みを伺ったところ、市川さんは「今まで色々な先生から教えてもらったことを最大限出して頑張りたいです」と話し、「個人戦は1人で戦う競技だが、潮陵全員で戦っているような気持ちで試合に臨みたい」と大会への思いを締めくくった。石井さんは「持てる力を発揮し、悔いの残らない試合をしたい」と語ってくれた。また、品田さんは個人戦では「普段教えてもらっている先生に恩返しができるよう、1つでも多く勝てるよう全国大会を目指して頑張ります」と話してくれ、団体戦については「チーム皆で盛り上がり、多くの試合に勝ちたい」と語ってくれた。

潮陵生一同、剣道部の健闘を祈りたい。

柔道部「この悔しさを晴らしたい」

5月24日（金）に柔道の高体連小樽支部大会が小樽市総合体育館で行われた。この大会で、潮陵柔道部は団体戦で準優勝し、全道大会出場を決めた。さらに、個人では男女合わせて9人が全道大会へ出場する。

この大会での反省と、全道大会への意気込みを伺うと、部長の3G赤澤椎那さんは「ライバルは強く、今まで勝っていても今回負けて、準優勝に終わってしまった。地区大会は最後だったので悔しい。全道ではこの悔しさを晴らしたい。全道は強豪校とあたるので、自分たちの力を試せる良い場となる」と語り、副部長の3G安原大志さんは「個人戦で3年生から優勝が出なくて悔しい。全道への切符を手にできたので、最低でも1勝、さらには全国を目指し、雪辱を晴らしてきたい」と語った。

全道大会で一花咲かせてほしい。

▲安原大志さん（左）と赤澤椎那さん

陸上競技部 バトンパスを極めて

5月21日（火）から24日（金）にかけて小樽市手宮陸上競技場で行われた高体連小樽支部予選にて、潮陵陸上競技部は男子が総合優勝、女子が2位となり、個人種目やリレーなどの多数の種目で全道出場を決めた。

1500m、5000m、3000m障害で1位となり、長距離三冠を達成した部長の3G清水秀広さんは「高体連でのタイムには満足できていないので、全道大会では自己ベスト必ず出して、先生に恩返しをしたいです。それが自分にとって一番の満足になると思います」と今大会を振り返り、全道大会への目標を語ってくれた。

また、男子、女子共に自己ベストを更新した、4×100mリレーにそれぞれ出場している3A越前淳己さんと3B新井田みなよさんに今大会と全道大会への意気込みを伺うと、越前さんは「記録が伸び悩んでいたので、バトンパスを一新したところ、自己ベストを更新できました。ですが、まだまだ改善点はあり、入念に練習してきました。あとは仲間のバトンを信じてゴールを駆け抜けるだけです。潮陵の名に恥じないプレーをしてきますので、応援よろしくお願いします」と語ったほか、新井田さんは「高体連では女子の方でもバトンパスに改善点がみつかったので、練習を積んできました。全道では仲間を信じて、満足できるハイレベルなレースをしたいです」と語ってくれた。

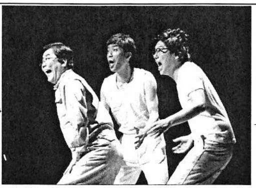
▲部長の３Ｇ清水秀広さん

陸上競技の全道大会は函館市の千代台陸上競技場で本日より行われる。潮陵陸上競技部の活躍に期待したい。

潮見平

最近、「アベノミクス」という言葉をよく耳にする。そもそも皆さんは「アベノミクス」の意味を知っているだろうか。「アベノミクス」とは現首相の安倍晋三が掲げる経済政策のことで安倍＋エコノミクス（経済）からくる造語のことだ▼「アベノミクス」という言葉と「3本の矢」という言葉もニュースでよく聞く。これは金融政策、財政政策、成長戦略の3つを指す言葉だが、これもそれぞれの意味を説明することができるだろうか。今、若者が政治に対する関心がないことが1つの問題となっている▼私たちには数年後、選挙権が与えられる。1人1人の1票が重要なものなのに、近年は選挙に行く人の数が約6割なのである。なぜ、このような問題が起きているのか▼そこには若者が政治に関心がないということが1つの理由となっている。政治に関心がないということは、今、誰がどのような政策を持っているのかわからない。つまり選挙に行っても投票できないのだ。まして投票に行くのを面倒臭がり、自分の1票で結果が変わるわけでもないと思っている人が多く、投票数が伸びないのだろう▼政治に目を向ける若者が少ないと思う。皆さんも今日から政治に少しでも関心を持ってほしい。自分たちが生きる世の中、自分たちが決めていくことにつながるのだから。

ザ・ニュースペーパー
会場に笑いのビッグウェーブ!!



6月11日（火）に小樽市民会館にて行われた本校の芸術鑑賞会で、社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー」にコントを披露していただいた。プロの芸人さんの素晴らしい演技とコントに織り交ぜた巧みな社会風刺に、会場の潮陵生は歓喜に溢れた。閉演後の潮陵生に感想を尋ねると、2F伊勢昴生さんは「潮陵生向けに社会のことをわかりやすく取り入れてくださっていて、楽しかった」と語ってくれた。また、先生方にも大好評で、1D担任の奥井宏先生は「一本松のコントは面白さを交えながらもメッセージを伝える内容でとてもよかった」と語る。

ザ・ニュースペーパーの皆さんに閉演後にお話を伺った。まず、コントへの潮陵生の反応について「先日、札幌で講演をしてきました。一般の方が多かった札幌での講演との反応の違いを楽しもうと思って来ましたが、潮陵生の皆さんは政治のことをよくわかっていて、とても反応が良くて驚いた」と皆さんが口々に語ってくださった。

さらに、各配役はどのように決めているのかを尋ねると「だいたいはメンバー同士で誰がふさわしいかを話し合いながら決めます」とのことだった。ただ「時の首相を演じる人は、大変です。首相の行動や言動の一つ一つに、常にアンテナを張っていなければなりません」とリーダーの渡部又兵衛さんは話す。

また、ザ・ニュースペーパーのメンバーは、皆さん経歴が個性的であることも教えていただいた。例えば、渡部さんのように、演技の勉強をされてきた方もいれば、福本ヒデさんのようにサラリーマンを経験をされた方もいるそうだ。松下アキラさんは、元々福岡で看板職人をされていたところ、ライブを見に行ってスカウトされたことがきっかけで、ザ・ニュースペーパーに入ったという。

最後に今後の活動について伺うと「11月21日（木）に再びここ、小樽市民会館で講演を行います。その際は9名全員で伺いますので、ぜひ来てください」と語ってくれた。19時開演、学生は2000円とのこと。ぜひ皆さんも足を運んでみてほしい。

メンバーの皆さんから潮陵生へ

福本（ふくもと）ヒデ さん

ザ・ニュースペーパーに入るまでは、ニュースは自分に関係のないことが多いと思っていました。しかし、社会に出ると、自分の給料も政治に影響されていることに気付きました。新聞を見ることは、ニュースへの興味や自分のわからないことに気付けるので、そこから何かを発見できます。皆さんも新聞をよく読んでもらいたいです。

渡部（わたべ） 又兵衛（またべえ） さん

新聞を読んでいく中で興味のある記事が見つかれば、同じ出来事を取り上げた他紙の記事も読んでみてほしいです。一つの出来事を各紙が取り上げているので、各紙ごとの表現や取り上げる目線の違いを感じるのも新聞を読む楽しみ方の一つですよ。

土谷（つちや） ひろし さん

新聞を読み、見聞を広めることは、初めて出会う知らない人と話すきっかけの道具としても大切なことだと言えます。皆さんも積極的に新聞を読んでみてください。

石坂（いしざか） タケシ さん

今はインターネットなどで簡単にニュースが見られる時代だが、より多くの若い人に紙の新聞を読んでもらいたいです。特に日本経済新聞なんかを読んでいるとインテリに見えますよ（笑）

竹内（たけうち） 康明（やすあき） さん

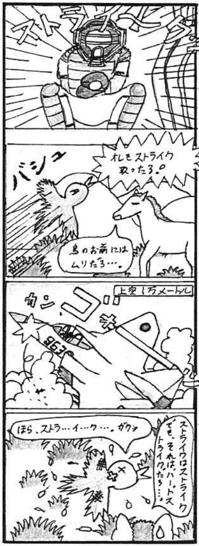
他の団員と思うところは同じです。新聞は読めば読むほど多くのことが分かってきます。そして分かれば分かるほど読むのが楽しくなってくる。皆さんには新聞を楽しみながら読んでもらいたいです。

松下（まつした） アキラ さん

ビジネスマンなどになって社会に出ると、政治関連の話題から会話が始まることも少なくありません。なので政治などの社会情勢を、新聞を通して知ることは大切なことです。また、新聞は台所のシンク磨きにも重宝します（笑）

ストライク・・・

作：夕子・D・夕雄


ストライーク
バシュ
オレもストライク取ったろ。
鳥のお前にはムリだろ…。
上空1万メートル
カン
ゴ
963
ほら、ストラ…イ…ク…。ガクッ
ストライクはストライクでも、それは、バードストライクだろ…。

本の蟲

イワン・デニーソヴィチの一日

著　ソルジェニーツィン
訳　木村 浩
新潮文庫

「イワン・デニーソヴィチの一日」は、ノーベル文学賞受賞者であるソルジェニーツィンの作品である。彼は旧ソ連の人で、数年を収容所の中で過ごした。

強制収容所（ラーゲル）に収監された農民出身の主人公、イワン・デニーソヴィチ・シューホフが、自分の属する第一〇四班の班員と共に起床し、強制労働に従事し、そして一日を終えるというラーゲルでのありふれた一日が淡々と描かれている。

この作品の一つの特徴は、他の登場人物が個性豊かで生き生きとしていることだろう。元海軍中佐のブイノフスキイや、新教徒のアリョーシカ、班長のチューリンといった人物の存在が、作品の現実感を引き立てている。主人公は酷寒のラーゲルという極限状態の中を、苦とも思わずに、小さな幸せを噛み締めながら、一人の人間としてたくましく、また他者への思いやりを持って生き抜く主人公の姿に、人間として重要なことはどのような状況にあっても希望を捨てずに楽しんで生きることだと感じた。

遠足
クラスの団結を強めて

6月7日（金）に本校の遠足が晴天の中、行われた。1年生は旭展望台、2年生は長橋なえぼ公園、3年生は天狗山山頂を目指して歩き、汗を流した。

1、3年生の集合場所となっていた、からまつ公園には集合前から多くの生徒が集まりバスケやキャッチボールをする生徒や、中には本格的に野球をしている生徒もいるなど、出発前から汗を流していた生徒も少なくなかった。

また、大変天気の良い日だったので、目的地に到着したころには日に焼けた生徒の皆さんも多くみられた。

この遠足は、各クラスごとで活動する行事としては一番最初に迎える行事だ。長い山道をクラスメイトと共に会話を弾ませながら歩くことを通して、クラスの団結がさらに高まったのではないだろうか。ここで高めた団結力で、球技大会、潮陵祭を盛り上げてゆきたい。

▲和気藹々と歩く３Ｃの生徒

文芸部連載リレー小説 第四回

一羽の鳥が少女を思う。いつからかだったか。彼女が他人を避けるようになったのは。

鳥が籠から飛び出したのは自分を探させるためであった。自分を探すために彼女を人と関わらせるのだ。

案の定、彼女は一人の少女に協力を依頼したようだ。

ただ、他人を避け続けていた彼女が人に頼るという発想に至るまでに実に三週間かかったわけだが。

この三週間は協力者の少女の中の彼女のイメージを相当悪くしたようだ。実際には一人で町を駆け回っていたのだが、そのことを告げなかったために鳥の事を何とも思っていない気まぐれな女と思われてしまっている。

普通はそれまで一人で解決しようとしていたと考えないだろうか？あぁ、そうか。彼女も同じなのだ。互いに人を蔑んでいるのだ。

これではいけない。彼女は心を開かない。何か、彼女達を繋げる存在が必要だ。

そこで鳥は見つけた。新聞を片手に通りを歩く少年を。

この少年ならば彼女たちを繋げられるかもしれない。

写真部 まだまだ募集中！

現在、写真部では、潮陵祭での企画のために、潮陵生が撮った写真を募集している。

写真部では毎年、潮陵祭で部員が撮影した写真の展示を行ってきたが、スマートフォンなどで完成度の高い写真が誰でも手軽に撮れるようになってきている現状を踏まえ、今年は初の試みとして、潮陵生が撮影した「自信のある写真」「お気に入りの写真」の募集を決めたという。集まった写真は写真部の展示会場の入り口で展示するそうだ。

部長の3G原郁美さんは「現在100枚くらい集まっていますが、出来るだけ多くの人の写真で入口をいっぱいにしたいので、皆さんどんどん送ってください！潮陵生全員がこの企画に関わってくれれば嬉しい」と語る。

募集期間は21日（金）までとなっている。皆さんも自信のある一枚を応募してみてはいかがだろうか。写真を送付するときは上記のQRコードから。

編集後記

こんにちは、新聞局の海老名です！今号はニュースペーパーの方々を含め非常に多くの人からご協力をいただきました。

また、サッカー部のプレー中の写真は顧問の加藤将司先生に撮影していただきました。本当に有難うございました。

さて、一部の部活では既に始まっていますが、いよいよ高体連全道大会が本格的に始まります。全道という舞台で悔いを残さないよう、実力を出し切って頑張ってください。皆さんの活躍を心より応援しております。

また、潮陵祭まで2週間を切りました。3年生は最後の潮陵祭ですが、思い出に残る祭りになるよう、企画や制作作業に励んでください～！